

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

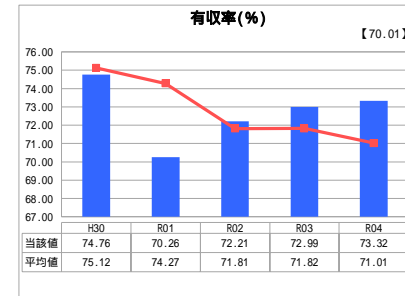
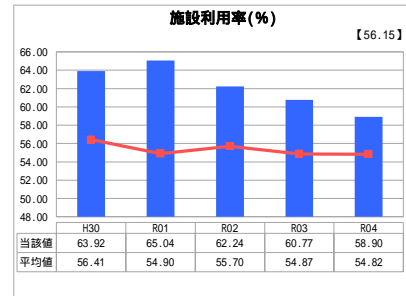
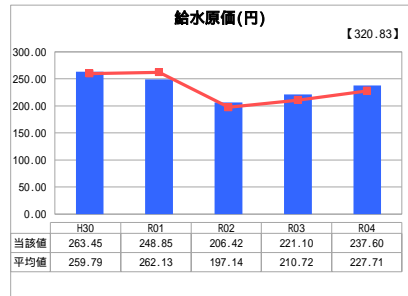
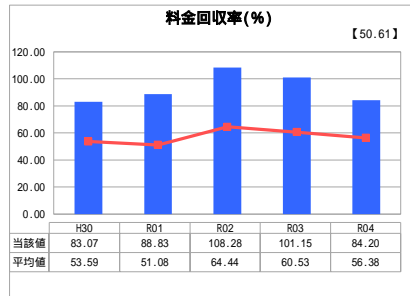
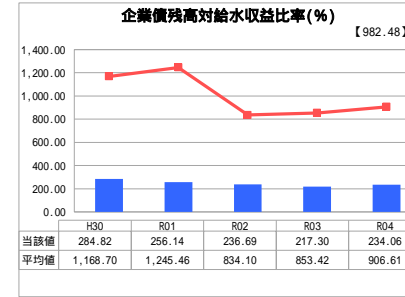
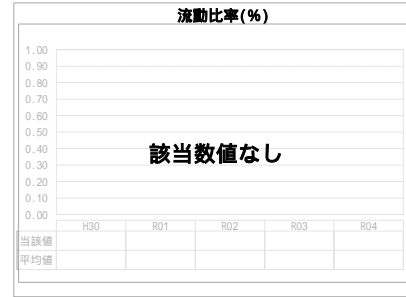
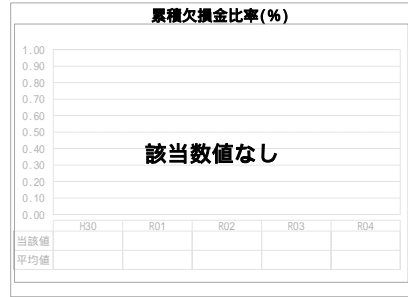
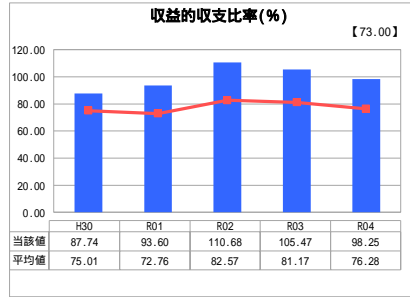
熊本県 苓北町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	96.84	4,250	

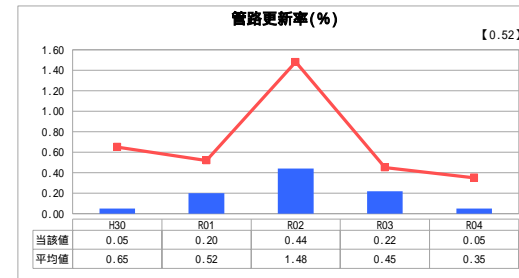
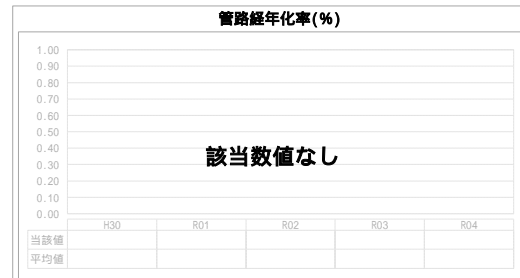
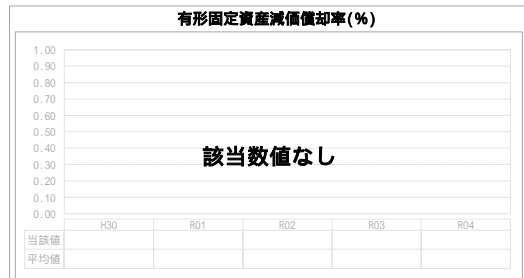
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
6,571	67.58	97.23
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
6,273	34.23	183.26

グラフ凡例
当該団体値(当該値) 類似団体平均値(平均値) 【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率について  
給水人口の減少により使用料収入が減少傾向にある。令和4年度においては修繕等にかかる維持管理費が増加したため前年度数値を下回った。  
企業債務高対給水収益比率について  
計画的な償還により起債残高が減少傾向にある。令和4年度においては水道使用料金の基本料金の減免により料金収益の減少が影響した。  
料金回収率について  
100%を上回っているが、令和4年度においては水道使用料金の基本料金の減免により料金収益が減少したことで、前年度数値を下回った。  
給水原価について  
有収水量の減少と修繕等による総費用の増加により前年度より上昇した。管路や施設の維持管理費用の削減を行うなどの改善を図る必要がある。  
施設利用率について  
年間総配水量の減少により前年度数値を下回った。今後、給水人口の減少等を踏まえ、適切な施設規模を検討していく必要がある。  
有収率について  
近年は増加傾向にあり改善しているが、今後も漏水調査修繕等を継続して実施し、無効水量の減少に努める。

### 2. 老朽化の状況について

管路及び施設等とも老朽化が進んでおり、今後、計画的に更新を行う必要がある。  
管路の更新については、道路改良工事に併せて布設替えを行うなど、コストの削減と効率的な施工に努めている。  
施設及び設備の更新については、多額の費用が必要となることからアセットマネジメント等を行い、計画的な更新を図っていく必要がある。

### 全体総括

今後、人口減少等に伴う使用料収入の減少、施設等の老朽化に伴う更新需要の増大と経営環境は厳しくなることが考えられる。  
固定資産台帳の整備により、的確な資産情報を把握し、今後の施設等の更新に備えた財政計画やアセットマネジメント等による長期的な計画を策定し、効果的な更新を行っていく必要がある。  
令和6年度から企業会計へ移行し、経営状況を把握することで、将来にわたる安定的な経営の継続を目指す。